

国外伝道ニュース

2024.9

■佐々木和之 IMV 帰国報告会のおしらせ

佐々木和之国際ミッション・ボランティアがルワンダで和解と平和の働きをはじめ、今年で20年となりました。これまでと現在の働きの紹介とメッセージをおとどけます。お近くの方は会場へ、またオンラインでぜひご参加ください。

日時: 2024年11月4日(月・休) 13:30~15:30

場所: 日本バプテスト大阪教会

ZOOM ミーティング ID: 859 7049 6517

パスコード: 077575



◎同僚として働いている教え子たちと卒業式で

日本バプテスト連盟インドネシア派遣

■野口日宇満宣教師・野口佳奈宣教師 定期帰国報告感謝

7月9日(火) 日本バプテスト連盟事務所礼拝堂にて野口日宇満、野口佳奈両宣教師の定期帰国報告会を行ない58名(会堂20名、オンライン38名)の出席がありました。報告された内容をご紹介します。

現在インドネシア・スマランのバプテスト神学校(STBI)では、約180名の神学生が学んでいます。基本的に女性の教役者が認められていないインドネシア・バプテスト教会連合(GGBI)において、学生の1/3を占める女性の多くは、将来教会で牧師以外の働きに就くか、宗教の先生として教える目的で学んでいます。男性は牧師のほか、政府の役人となる場合もあります。

佳奈宣教師によるとインドネシアの多くの教会では幼稚園や小学校を併設しており、経済的に困難な家庭をサポートする中で保護者にも伝道をしているとのこと。共有された映像では、教会の女性会で高齢者施設を訪問し、入所者と教会からの方が2人ずつに分かれ、手を取って祈る姿が大変印象的でした。

日宇満宣教師はチャンディ教会を通して北スラウェシ、パプアを訪問するなどジャワ島以外での働きも広がっています。また、バプテストのメンバーでインドネシアから岐阜へ派遣される技能実習生に日本の文化を教え、簡単な証を日本語でできるよう研修を担当しました。

多民族・多言語のインドネシアですが、国語はインドネシア語と制定されています。これにより、ひとつの地域、



◎7/9報告会に参加いただいたみなさんと

ひとつの民族だけが優遇されることのない、今のインドネシアがある、それゆえ「インドネシアのどこでもインドネシア語で宣教ができるのです」とうれしそうに報告してくださった日宇満宣教師、また、佳奈宣教師の祈りに満ち、穏やかな報告に心うたれ、神さまに感謝しました。今回の帰国では、郡山コスモス通り教会(6/30)、西九州連合修養会(7/15)、広島教会(7/28)でも報告会を開催させていただきました。(国外伝道臨時委員 エイカーズ愛)

この日の報告会の動画を右記QRコード(<https://youtu.be/iVq3px-q9Y4>)からご覧いただけます。

ぜひみなさんで視聴していただき、インドネシアでの働きをおぼえお祈りください。

